

支援機器相談シート

相談日 R4年1月14日

中学部 生徒2

相談内容

●保護者より（相談内容）

- ・衣服の着脱を手助けするような物
- ・食事を介助できるような箸みたいな物
- ・行動、動作等を音声で示している機器やカード

●担任より補足

コミュニケーション面

内言語が多いと思われ、会話をするのが好き。「いく」や「うん」の短い言葉は、はっきりと発音することができる。（「トイレ行く？」と聞くと「行く」と応えるなど）時折、「もうできた」など長めの言葉をはっきりと聞き取れるように発することもある。

行動面

ここ数年で自我が強くなってきている。喜や楽は今までも多く見られたが、怒の感情が少しずつ出るようになってきた。
イラストカードを用いて「ごちそうさま」や「トイレ行く行かない？」の意思を確認する場面を設けている。（例 生徒が手をたたいてごちそうさまの合図をした⇒絵カードを選択して先生と確認をする）
⇒イラストの意味を捉えて選択できているかどうかはわからないが、カードの位置を変え、2回聞いて同じイラストを選べることもある。

食事面

学校のスプーンを使用して食事をしている。

作業面

朝の身支度や衣服の脱ぎ着など、支援を最小限にして自分で取り組むようにしている。

相談結果

○食事を介助できる箸などの食具

- ①嚥下機能、手指の巧緻性に合わせたスプーンを使用する。
 - ➡手首を返す動作の必要がないものから始める。
 - ➡手に大きさに合わせて、持ちやすいようにグリップを使用する。
 - ➡すくいやすいように柄の部分が固定されたステンレスのものにしてみる。
 - ➡シリコン製のものとすくうときに皿に引っ掛かりストレスになることもある。



（自由に曲げられるスプーン）

- ②食器の位置を調整する。

- ➡台を置いて高さを調整する。ひじの動きが制限されないよう、食器を置く台の高さや幅を調整する。



③皿の中身を見やすくする。

- ➡食べやすいもの、好きなもの嫌いなものが分かりやすくなる。
経験として積み重なりやすい。
- ➡持ちやすく、傾けやすい取っ手付きの皿を使用してみる。
- ➡茶碗を傾けて置ける食具を使用してみる。



(取手付き皿)



(茶碗まくら)

④箸を使ってみる。

- ➡箸で刺して食べることから始めてみる。
- ➡箸の開閉が分かりやすいように、
ばねがしっかりしているものを選んでみる。



(介護用箸)

※他の相談内容については時間の関係上実施できず。